



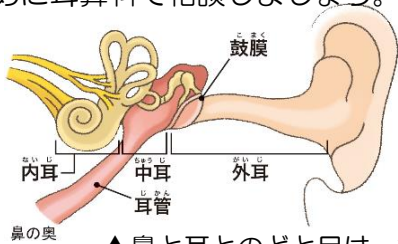
ほけんだより

2023年2月発行
 学校法人織田学園
 おだ認定こども園
 園内の感染症に関する状況は
 連絡アプリ『園からのお知らせ』
 で随時更新しています。

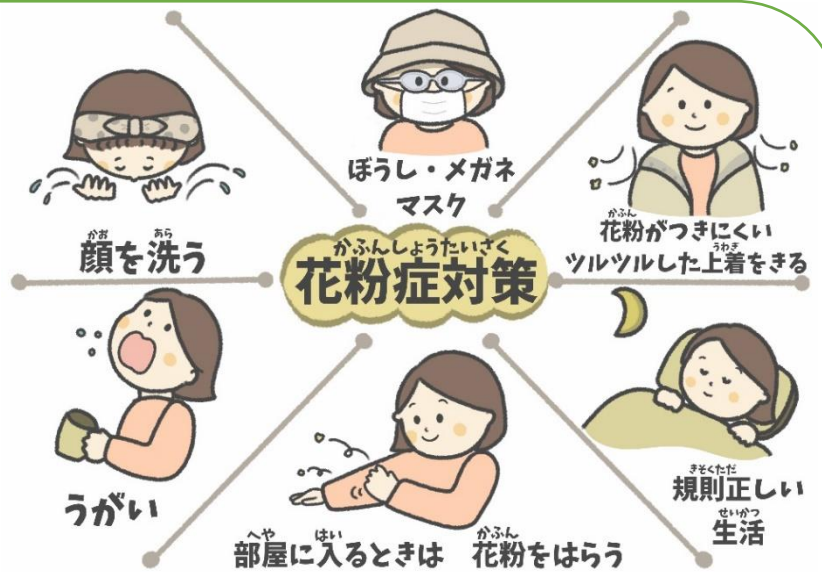
- 国の新型コロナウイルス感染症対策の方針転換が報じられています。年末年始に園内で流行した新型コロナやインフルエンザは、1月後半にかけて落ち着いています。急な高熱の初期症状だけでは診断が難しく、特に子どもは急激に熱が上がる事での熱性けいれんに注意が必要です。療養期間が終わった後、子どもはしばらくして川崎病のような症状を起こす報告があり、大人も倦怠感やのどの症状が長引く方がいるようです。園では『換気・手洗い・咳エチケット』『発熱など、体調が悪い時は休む』など基本的な感染症対策を継続しています。引き続き、登園前の体調観察をよろしくお願いいたします。
- 1月発生の感染症：新型コロナ、インフルエンザ（A・B）、アデノウィルス、突発性発疹 他

花粉症対策について

- 花粉症の季節がやってきました。今年には『飛散量が非常に多い』予報のようです。（[東京アレルギー情報 Navi](#)）
- 鼻のアレルギー症状が長引くと、耳管を伝って中耳炎の症状を起こしやすくなります。長引くことも多いので、早めに耳鼻科で相談しましょう。



▲鼻と耳とのどと目は、細い管でつながっています！



『様子を見る』って何をみる？

- 『様子を見ましょう』≠何もしない
受診して検査をしても特に診断がつかず「様子を見ましょう」と言われることがあります。発熱や咳・嘔吐等の症状は、いろいろな病気の初期症状に共通します。『様子を見ましょう』は、何もしないのではなく、今の苦しい症状を和らげながら、特徴的な症状や経過が出てきた時に必要な治療ができるよう『経過を観察して、良くならない時もう一度診察しましょう』という意図もあります。
- 体調の観察ポイントと工夫
お薬手帳と同じ大きさのノートに症状や受診の様子を書いておくと、家族で共有できます。
 - ・熱の経過：
グラフでつけると経過がわかりやすい
 - ・発疹・蕁麻疹、便の状態、けがをした場所や物、けいれんの様子等：
写真や動画を撮って医師に見せるとよい
 - ・メモにしておく：
医師に聞きたい事を書いておくと診察で慌てません。解熱剤の使用、咳の様子、次の受診のタイミング、いつから登園してよいか家族が気をつける事、等



子どもの窒息事故防止

- 節分の前に、消費者庁は『食品による子どもの事故防止』について注意喚起しています。園やご家庭の過去の事例で『どんぐり・髪ゴムの飾り・指の絆創膏・指輪・小さなおもちゃ』等が子どもが鼻に入れてしまった、飲み込んでウンチから出てきたという事がありました。
- 気管内異物の窒息事故は主に1～3歳ですが、5歳以上でも起きます。最初はわかりにくい事も多く、大人が様子の变化に早く気がつく事が大切です。
- 鼻に入れた場合、落ち着かせ異物がない方の鼻を押さえ『フン！』とさせると出る場合があります。
- 耳の場合、取ろうとして押し込み外耳を傷つける場合があるため、無理せず耳鼻科受診を勧めます。
- 窒息を疑う時は『背部叩打法』を行い、ぐったりした時は119番通報と心肺蘇生法を行います。

◎救急車を呼ぶかどうか迷った時は『#7119』
 ◎『[東京都耳鼻咽喉科医会](#)』耳鼻科の休日当番医

【お願い】

園では誤嚥しやすい年齢の園児や、大豆アレルギーのある園児も一緒に生活しています。節分後の登園は、ポケットやカバンの中に豆類が入っていないか、持ち込み防止の確認にご協力をお願いします。

